

けがをしたときは

さいがいがおきたときは、身をまもることが大切ですが、けがをしてしまうことがあります。自分でできる手当の方ほうをおぼえましょう。

1 1 手当の方ほうをおぼえましょう

●きずなどによる出血

まずは、きれいな水であらい、出血しているところをきれいなガーゼや布で強くおさえ、血にちよくせつさわらないようにします。

きれいなガーゼがないときは、ハンカチなど身近にある布をつかきましょう。



●だぼく

ひなんするとき、つまずいたり、ころんだりして、体をぶつけることがあります。

いたいところをよく見て、はれやいたみが強いときや、形がかわっているときは、動かさないようにし、すぐに大人に知らせましょう。



けがの手当てに役立つ身近なもの

ハンカチ：ガーゼのかわりになる。

ラップ：血を止めるとき、ほうたいのかわりになる。

ビニールぶくろ：血を止めるときに手ぶくろのかわりになる。



ぼうさいリュックの中に、きゅうきゅう用品を入れておくと安心ですね。ぼうさいくんれんなどで、手当の方ほうを学びましょう。



2 2 大人につたえよう

けがをしたり、たおれている人を見つけたりしたときは、近くにいる大人につたえましょう。

「どんなふうに、話せばいいのかな？」

